

海自護衛艦「いずも」「さざなみ」カムラン国際港寄港に際するスピーチ

カインホア省人民委員会副委員長グエン・ズイ・バック氏、ベトナム国防省関係者、カインホア省人民委員会代表の皆様、また、オシウス大使、米海軍をはじめとしたパシフィック・パートナーシップ関係国の皆、海上自衛隊護衛艦の「いずも」そして「さざなみ」を盛大にお迎え頂き、日本政府を代表し、心より感謝申し上げます。本日、ここカムラン国際港に、パシフィック・パートナーシップの下、ベトナム人民海軍の病院船、米海軍の艦艇及び海上自衛隊の護衛艦が集っている姿を目の当たりにして、心より嬉しく思います。これはまさに、日本とベトナム、そしてパシフィック・パートナーシップ関係国間の友好関係の深さを象徴するものです。

ここ、カムラン湾が面する南シナ海は、国際的なシーレーンを有し、民間船舶・軍艦を問わず、24時間365日、多くの艦艇が行き来する、「自由で開かれた海」として、地域の平和と繁栄において欠かせない役割を担っています。

この「自由で開かれた」南シナ海の海が、航行の自由と国際法の原則の下、平和で安全な海であり続けることは、地域全体ひいては世界の平和と安定にとって非常に重要です。

その南シナ海の要衝に位置するカムラン湾にあるカムラン国際港は、天然の

良港であるのみならず、その地政学的な重要性から、様々な国際協力活動に従事する各国海軍の艦艇に対し、安定的な補給支援の拠点として大きな利益をもたらしています。引き続き、カムラン国際港が、南シナ海の、ひいては地域そして世界の平和と安定に大きな貢献を果たしていくことを確信しております。

日本国自衛隊については、2007年からパシフィック・パートナーシップに参加しています。引き続き、本活動への参加を継続することにより、日本とベトナム、また、パシフィック・パートナーシップ関係国との相互理解及び協力がより一層促進されることを祈念致します。最後に、このような場を提供、また準備してくれた第1護衛隊群司令 伍賀（ごか）海将補をはじめとする海上自衛隊の皆様、また、米海軍及びベトナム人民海軍の皆様に深く感謝申し上げます、私の挨拶と致します。

2017年5月23日

ベトナム駐劄特命全権日本国大使

梅田 邦夫